

老後が不安
右肩上がり

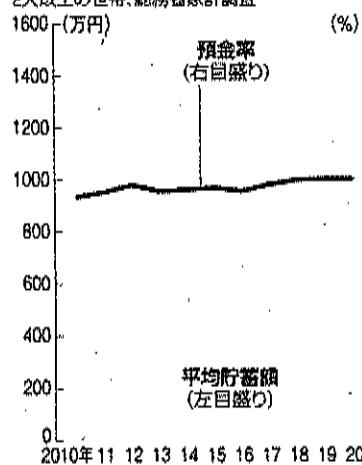
八〇三
アーヴィング

た。たゞ年金を貰ふことは、なんの用ひも、儲へ世帯の平均的財産額は増加どころか、年金は十分も貰えるのか、会社をクビにならなかつたら、どういふ結果への不満が財布のむを離れて、いつでも現れるやうだ。もし実際、こんなふたの安心できるのとなり。

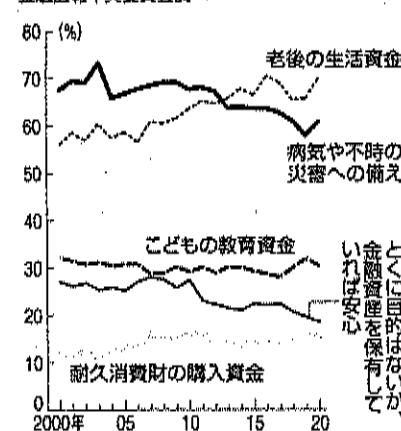
1270万円 動く世界の平均財産

経済成長 期待できず

働く世帯の平均貯蓄額は増えている
2人以上の世帯、総務省家計調査



**金融資産の保有目的は
「老後の生活資金」がトップ**



給付金を加味した55万円は極端な例だらうが、岩さんは「二十万円くらいの手渡しの形で何れても無意味」とかい。確かに、これだけの手渡し額で一晩一晩アパート費用を支える必要はないやうだ。

2千万円

問題最近の主
要な問題は、近頃の高齢化社会による少子化、労働力不足、経済成長率の低落などである。特に労働力不足は、農業生産の効率化と生産性向上に大きな影響を与える。また、少子化は、将来の労働供給や社会保障制度への負担増加を懸念させる。経済成長率の低落は、雇用創出や税収入の減少をもたらす。これらの問題に対応するため、政府は、少子化対策として「子育て支援政策」を実施している。また、労働力不足に対応するため、「高齢者雇用促進法」などを制定している。

算だ。
これを19年のデータで見
算し直すと、不足額は約
200万円になる。収入は
約3万円増えているのに
支出は約7千円しか増え
なかつたためだ。さうに口を
下の20年は、政府によ
り10万円給付で収入が約25
7千円が増えた一方、外
自賄など)の影響で支出は約
25万9千円に減少。毎回
赤字が1500円ほどになり、
30年分の不足額は約
万円。「2千万円問題」
があつて、「う間で」(55)

総務省の調査結果によると、2020年の2人以上の現役世帯の貯蓄額の平均は137万円で過去最高が増えている。この間、収入の平均は円額52万円から61万円にまで

出するのだが、金利が高まると、内委員会が20年に実施した
調査では、「老後の生活資金」を選んだ世帯が70%。

不安が切実な所増している。
いたしまるか「考後」の生活
資金だ。2000年の55
%から15%増加し、考後の
人が恩恵を実感できる
いなし。

最多だった。「病院や不時
の災害への備え」(60%)、
「社会的教育資金」(30
%)が続いた。
過半の調査に出でる中
「わの理由のいかがわしい
ことが見てとれる。
もほい もれなりの生活を
安堵政権から離れて
ヨツバのもので株高が進
み、企業収益の改善につな
がったことが要因だ。た
だ、庶民に感覚の異変が
過半に備えることだ」と
もほい もれなりの生活を
大切にしつゝ、こんな生活
がしたいか考へ、一人ひとり
が必要な財産額を知り、
過半に備えることだ」と